

日 時：2023 年 5 月 25 日(木)14:00～15:45

場 所：Web 会議形式での開催

出席者：藤野裕士（理事長）、大塚将秀、志馬伸朗、竹内宗之、竹田晋浩、
平井豊博、近藤康博、中根正樹、石井宣大、佐藤暢一、玉木 彰、
茂呂悦子（各理事）、川前金幸、西田 修（監事）

欠席者：内田寛治（理事）

（敬称略）

【開 会】（藤野理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席が報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案どおり承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 0 件、連絡 6 件）決定事項の承認（藤野理事長）

- ・連絡事項 4 件を確認した。

3. 理事長報告（藤野理事長）

1) 日本臨床工学技士会法人設立 20 周年記念事業

- ・2023 年 3 月 11 日(土)に京王プラザホテルで開催された標記記念事業に出席した。

2) 2023 年度日本臓器移植関連学会協議会

- ・2023 年 4 月 1 日(土)14:00～16:00 に Web 会議形式で開催された標記協議会に、
志馬副理事長が出席した。

3) 事務局員が出席する委員会・会議について

- ・前年度に開催された時間外の会議に事務局員が出席した分については、2022 年度末
に別途当該料金をメディカ出版にお支払いした。

4) 確定申告と社員総会の時期について

- ・確定申告を適切な手順で実施するにあたり、2024 年の定時社員総会からは、総会を
6 月末までに Web で開催することを決定した。その場合、定款第 28 条に書かれてい
る「毎事業年度終了後 6 か月以内」を「3 カ月以内」に変更する必要がある、社員総
会に諮ることとする。

4. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2023 年 5 月 1 日時点の会員数が以下のとおり報告された。

一般会員：1,860 名（Dr 1,138、Ns 261、CE 322、PT 111、他 28）

賛助会員：15 社／年間購読契約：8 件

- ・会員動向は、年度末の資格喪失退会 72 名により、前年同時期とほぼ同数となった。医師会員のみ増加傾向にあり、看護師・臨床工学技士、理学療法士いずれも微減傾向となっている。
- ・一般会員の会費納入状況は、2021 年度が 95.0%、2022 年度が 88.9%となった。

5. 学術集会準備状況

1) 第 45 回学術集会（近藤会長）

2023 年 8 月 5 日(土)・6 日(日)ウインクあいち（名古屋）

「つなぐ ～ニューノーマルへ Connecting the Dots」

- ・プログラムの進捗が報告された。5 名の海外演者招聘が決定し（2 名がオンライン登壇）、企業協賛については共催セミナー15 件、共催ハンズオン 1 件、展示 7 件、寄附 1 件、広告 6 件が内定。
- ・一般演題 187 題となった。プログラムをほぼ確定した。

2) 第 46 回学術集会（中根副会長）

2024 年 6 月 28 日(金)・29 日(土)天童ホテルほか（山形）

- ・ポスターの作成、ホームページ制作を進めていることが報告された。

3) 第 47 回学術集会（吉田健史代議員）

2025 年 8 月 30 日(土)・31 日(日)グランキューブ大阪（大阪）

6. 事業報告

1) セミナー事業（大塚理事）

- ・第 52 回日本呼吸療法医学会セミナーの参加申込中。現在 603 名の参加申込。受講期間は 7/1～31。受講料は 7,700 円（税込）。
- ・医師向けセミナー第 2 回 Refresher コースの 6 講義のテーマ・講師が内定。受講期間は 11/1～30。受講料は 12,100 円（税込）。

2) 呼吸療法専門医研修施設 2023 年度〈更新・新規〉申請（佐藤委員長）

- ・現時点で更新 21 施設（対象 36）、新規 3 施設からの申請を受理。

7. 各委員会報告

1) 将来計画・財務委員会（藤野委員長）

- ・持続可能な学会組織の構築を目指して活動を行い、代議員数の維持、財務改善などの成果があった。今後の課題として、委員会活動で将来性のある会員に実績を作ってもらうこと、未開拓の広報・国際交流などの分野に適任者を任命することなどがあげられた。
- ・他学会との連携を引き続き検討し、本会の特長を活かした学会の柱となる事業の構築や、学術研究の推進を進める方針を確認した。

2) 人工呼吸編集委員会（竹内委員長）

- ・広告掲載の再考について理事会承認を得る。

- ・『人工呼吸』第39巻第2号（2022年11月）、第40巻第1号（2023年5月）の発行と、第40巻第2号（2023年11月）、第41巻第1号（2024年5月）の企画案が報告された。
 - ・2022年度は投稿数が16件で、前年度の21件を下回った。
 - ・2023年度『人工呼吸』論文賞授賞者として3編を推薦し、理事会で承認された。第45回学術集会で優秀演題とともに表彰を行う予定である。
 - ・ユーザーレポート・広告の掲載状況は、第38巻（2021年度）がそれぞれ8社・2件）、第39巻（2022年度）がそれぞれ4社・0件となり、広告数が0となった。広告掲載についてはオンラインジャーナルに移行したこともあり別の方法を検討することとし理事会でも承認された。
- 3）代議員審査委員会（平井理事）
- ・代議員審査2024に向けて準備を進めていくことが報告された。
- 4）小児在宅人工呼吸検討委員会（竹内理事）
- ・第2版は第1刷2,000部（2022年8月）の後、第2刷800部（2022年11月）、第3刷800部（2023年5月）と増刷され、計3,600部となった。
 - ・学会買取分350部については委員・著者らの尽力により完売となった。
 - ・第3版についても検討を行うこととした。
- 5）セミナー委員会（大塚理事）
- ・2022年度は3つのオンラインセミナーを実施し、以下の収支を計上した。

	受講料収入	講演料	委託料など	事務局費	収 支
第51回セミナー(809名)	5,663,000	546,732	1,666,401	150,000	+3,299,867
第1回 Refresher(150名)	1,650,000	364,484	798,811	100,000	+386,705
第12回 Basic(419名)	4,609,000	425,236	1,463,882 (宣伝)128,235	100,000	+2,619,882

- ・2023年度は以下の4セミナーを開催する。
- ・第52回医学会セミナー（9講義）
 - 対 象：メディカルスタッフ
 - 担 当：プランナー 方山真朱 委員長
 - 日 程：講演依頼 2/1～3/31 受付期間 4/1～5/20 受講期間 6/1～7/31
 - 受講料：7,700円（税込、テキスト代含む）
 - 点 数：3学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25点）付与
- ・医師向けセミナー第2回 Refresher コース（6講義）
 - 対 象：呼吸療法専門医試験を受験する水準の医師
 - 担 当：プランナー 小泉 沢 委員
 - 日 程：講演依頼 6/1～7/31 受付期間 8/1～9/30 受講期間 11/1～11/30
 - 受講料：12,100円（税込、テキスト代含む）

教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）

・ 医師向けセミナー第 13 回 Basic コース（7 講義）

対 象：呼吸管理を専門としない医師・研修医など人工呼吸器の初学レベル

担 当：固定されたテーマを委員が担当

日 程：講演依頼 10/1～11/30 受付期間 12/1～1/31 受講期間 3/1～3/31

受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

・ サマーキャンプ in ニセコ ハンズオンセミナー「人工呼吸器」

対 象：日本集中治療医学会 50 周年記念事業参加者、多職種

講 義：4 ブースでハンズオン「実機を用いた人工呼吸シミュレーション」

担 当：（インストラクター）セミナー委員 8 名

日 程：2023 年 8 月 25 日（金）13:00～17:00

費 用：謝礼（約 1 万円）、交通費、宿泊費 1 泊分、食費、参加費など先方負担

6）チーム医療推進委員会（大塚理事）

・ 第 45 回学術集会における委員会シンポジウムを企画した。

①多職種で関わる自発呼吸トライアルシンポジウム

②RST のこれから～日本の呼吸管理の理想形とは～

・ 「呼吸管理および自発呼吸トライアルにおけるメディカルスタッフの関わりについて
の実態調査アンケート」を 4 月 18 日～5 月 24 日に実施した。

・ 呼吸管理の諸問題を集約・議論する場の設置を委員会として実施した。第 45 回学術
集会の会期中に試用期間を設け、改善の後、会員専用ページで正式に開始する予定。

6-2）RST プロジェクト（佐藤理事）

・ 認定施設による UMIN のデータベースは欠損値が多く質の改善の見込みも薄いため
あと数年運用してデータをまとめた後、終了する。

・ データベース運用終了までの間は、実務を担う西村、長谷川（呼吸療法）、南雲（ケ
アリハ）の 3 名で規模を縮小して運用する。

・ 代表については 2023 年定時社員総会後から、長谷川先生（呼吸療法）が再任する。

7）安全対策・危機管理委員会（中根委員長）

・ 人工呼吸器の作動停止事例情報（2022 年 7 月～2023 年 3 月）について、以下のと
おり報告された。

→情報提供数：8 件（実害なし 4 件、後遺症あり 0 件、死亡 0 件）

（アラーム発令 5 件、停止に気づいたもの 3 件）

・ 医療安全全国共同行動 2023 年度定時社員総会が 6 月に予定され、内田理事が出席し
本会の状況について報告を行う予定である。

・ 人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）の改訂作業にあたり、医療安全
全般にわたり、各施設の方針の違いなどもあり取りまとめに難航している。臨床工学
技士会と共同で制作する案が提案され承認された。

8) 専門医委員会（佐藤委員長）

- ・呼吸療法専門医・研修施設の 2022 年度〈更新・新規〉認定結果が報告された。認定数は 2022 年度末時点で、施設 127・専門医 302 名となった。
- ・2022 年度の筆記試験は受験者 34 名中 33 名が合格した。客観問題 20 問については識別指数を算出し、どの問題も適正範囲に収まる結果となった。
- ・第 45 回学術集会で、4 コマが専門医更新講習として設置される予定である。
- ・『呼吸療法専門医テキスト 2023』は 8 月に会員専用ページに公開予定である。
- ・本年度の筆記試験は 12 月 2 日(土)に新大阪で実施する。出題形式は検討中。合計点 6 割以上を合格とする。
- ・更新点数の管理方法について引き続き検討する。

9) ECMO プロジェクト委員会（竹田理事）

- ・COVID-19 発生状況、支援計画、講習会計画について、適宜 Web 会議を実施した。
- ・約 3 年間継続していた日本 ECMO net による電話相談窓口が、厚生労働省との契約期間が満了となった。我が国において広く普及した相談窓口でもあり、電話番号自体も認知されていることから、業務を 365 日、24 時間継続する方針とした。
- ・COVID に関する CRISIS によるレジストリーは 2022 年 3 月 31 日で終了となり、今後、従来 ECMO プロジェクトで行っていたレジストリーを、モダリティと内容を変更して再開する方針である。
- ・ECMO・PCPS バイブル、増版された。累計 4,200 部。コロナ終息後に改訂も検討する。

10) 利益相反委員会（竹田理事）

- ・日本医学会の COI 表示を注視し、本会の規定を確認した。
- ・2022 年に日本医学会 COI 管理ガイドラインに一部改定があり、確認を行う。

11) 社会保険委員会（志馬委員長）

- ・内保連の加盟状況を以下のとおり確認した。
 - ①加盟認定：2018 年度より加盟
 - ②代表委員：志馬理事、近藤理事、平井理事の 3 名を登録
 - ③診療領域別委員会：01. 検査関連委員会 03. リハビリテーション関連委員会
10. 呼吸器関連委員会 20. 在宅医療関連委員会
- ・令和 6 年度診療報酬改定最終案として、以下 2 件を提出した。
 - 既収載「基礎代謝測定（間接熱量測定）」（起案：海塚安郎）
 - 未収載「酸素ポンベ安全性加算」（起案：蝶名林直彦、共同提案：集中治療医学会）

12) 倫理委員会（志馬理事）

- ・倫理委員会において、坪井知正委員長が退任となり、大塚委員に、次の委員長の選出までの後任をお願いすることとした。
- ・研究倫理について取り組むか検討する。

- 13) 学術集会あり方検討委員会（近藤委員長）
- ・第 44 回学術集会から採用している学術集会抄録アプリを第 45 回でも継続使用することとし、プラン、広告、業務範囲などについて確認を行った。
- 14) 学術研究推進委員会（志馬理事）
- ・「集中治療と医療の質指標と VAE（略称）」
担当：中橋 奨（三重大学医学部附属病院救急・集中治療センター）
第 43 回日本呼吸療法医学会集会で中間解析を発表済。
1,101 名の患者症例登録を終了。データ整形終了後、本解析に進む予定。
 - ・「ARDS 患者に対する ECMO 管理中の至適 PEEP の検討」
担当：大下慎一郎（広島大学大学院救急集中治療医学）
 - ・「小児心臓血管外科術後患者における高流量式鼻カスラの効果」
担当：吉田健史（大阪大学大学院麻酔集中治療医学）
 - ・「新型コロナウイルスの治療薬・ワクチンの開発に資するデータ連携基盤の構築」研究
担当：今井由美子（医薬基盤・健康・栄養研究所）
学会誌『人工呼吸』第 40 巻第 1 号に採択となり学会ホームページにて公開。
 - ・COVID-19 患者における急性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸管理デバイス（HFNCOT、CPAP、NPPV）の有効性と安全性の検討
担当：近藤康博（公立陶生病院）
- 15) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（中根理事）
- ・2020 年度から本アセスメントの改訂を目的とした新たなワーキンググループを始動し、6 年以内での改訂版作成を目指している。
- 16) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（中根委員長）
- ・EtD と推奨の決定は、WG 委員と評価委員による投票での実施を予定している。
 - ・第 45 回学術集会でシンポジウムを開催し、意見収集を行う。
 - ・『人工呼吸』第 40 巻第 2 号（2023 年 11 月発行）での掲載を目指す。
- 17) ARDS 診療ガイドライン作成委員会（竹内理事）
- ・日本呼吸器学会・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会の 3 学会合同で「ARDS 診療ガイドライン 2021」を上梓した。
 - ・引き続き 2026 年の改訂版を目指し、3 学会で継続して取り組むことが承認された。

Ⅱ．審議事項

第 1 号議案 名誉会員の推戴（藤野理事長）

- 1) 名誉会員推戴候補者（1 名） ※定款施行細則第 30 条
- ・前期で定年を迎えた榎田浩史先生が、名誉会員推戴の候補者にあがった（第 35 回会長、理事通算 8 期、元事務局長）。名誉会員選出に関する定款施行細則に則り、推戴

を承認した。

第2号議案 委員会人事（佐藤理事）

- ・倫理委員会において、坪井知正委員長が退任となり、大塚委員に、次の委員長の選出までの後任をお願いすることとした。

第3号議案 第45回学術集会参加費の件（近藤会長）

- ・第45回学術集会参加費は以下のとおり提案され承認された。

【参加費】

医師（会員）	（非課税）	13,000 円
医師（非会員）・一般	（税込）	14,300 円
メディカルスタッフ（会員）	（非課税）	10,000 円
メディカルスタッフ（非会員）	（税込）	11,000 円
研修医	（税込）	10,000 円
学生（学部学生のみ）	（税込）	3,000 円

第4号議案 第48回（2026年）学術集会会長候補（藤野理事長） **p.37**

- ・今後の会長候補として、第48回（2026年）に平井豊博理事（京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学）、第49回（2027年）に竹内宗之理事（国立循環器病研究センター集中治療科）、第50回（2028年）に内田寛治理事（東京大学大学院麻酔科学）のお名前があがった。
- ・その後の候補に阿部信二代議員（東京医科大学呼吸器内科学分野）もあがっている。

第5号議案 2022年度事業報告および決算書類承認の件（佐藤理事、川前・西田監事） **p.40**

<収 入>

- ・年会費：会員数は微増したが、納入率が－2.7%の低下により、前年度より－19.8万円の減となった。年度内の納入率は約86.5%、未収金は232.8万円。
- ・事業費：オンラインセミナーが年1回から3回となり、前年度より8,307,454円増となった。
- ・広告費：広告は1号・2号いずれも0社、ユーザーレポートは計3社となり、前年度より－53.5万円の減となった。
- ・機関誌販売：雑誌販売は0冊、別刷販売は1社となり前年度より－17.6万円の減となった。文献使用料・許諾料はほぼ前年度と同水準であった。
- ・当期収入は118,965,397円、学術集会関連を除くと35,008,304円となった。

<支 出>

- ・機関誌等発行費：前年度より機関誌が合計21頁減となり、一方、過去の機関誌をホームページに掲載した経費により5.7万円の増となった。
- ・事業費：セミナー回数増により、前年度より3,026,605円の増となった。

- ・委員会費：委員会全体の活動は前年と大差なく、ARDS 診療ガイドラインの制作費減により、前年度より 26.9 万円の減となった。
- ・社員総会費：現地開催により、前年度より 74.5 万円の増となった。
- ・当期支出合計は 101,178,772 円、学術集会関連を除くと 23,753,151 円となった。
- ・次年度繰越利益は 119,985,144 円となった。

<収支合計>

- ・学術集会を除く単年度収支は 11,255,153 円の黒字となった。

<監査報告>

- ・川前監事・西田監事から、会計監査を行い、適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2022 年度決算について、承認された。

第 6 号議案 2023 年度事業計画および収支予算の件（佐藤理事） p.51

<収 入>

- ・会費収入：2023 年 5 月 1 日時点の会員数にもとづき計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年 1 回（800 名）、医師向けセミナーを年 2 回（550 名）として、参加費収入を計上した。
- ・広告収入：1 号の広告・ユーザーレポート掲載料は実費を、2 号は見込額を計上した。
- ・書 籍 等：『ECMO・PCPS バイブル』『小児在宅第 2 版』の印税見込額を計上した。
- ・学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・以上、当期収入予算は 102,931,000 円、学術集会関連を除くと 30,931,000 円となった。

<支 出>

- ・機 関 誌：1 号の発行諸経費にもとづき計上した。J-Stage 登載費用として、本年度の投稿論文 20 編を見込んで 14 万円を計上した。
- ・事 業 費：医学会セミナーを年 1 回、医師向けセミナーを年 2 回として、セミナー予算にもとづき計上した。
- ・委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。
- ・学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・専門医等：『呼吸療法専門医テキスト 2023』の編集費と会場費を計上した。
- ・そ の 他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・以上、当期支出予算は 87,798,000 円、学術集会を除くと 21,093,000 円となった。

<収支合計>

- ・単年度の収支は約 984 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・以上、2023 年度予算について承認された。